

『訓蒙図彙』の海外流布と利用

陳 力 衛

1. はじめに

周知のように、『訓蒙図彙』は儒者中村惕斎(1629-1701)が京都で出版した図解の漢和対訳の識字啓蒙書で、百二十年間にわたって初版(1666)、再版(1695)、三版(1789)が刊行されていて、江戸時代において確たる位置を占めている。寛文6年(1666)の初版は20巻14冊からなり、半葉を上下に分けて2枚の図を描き、子どもや初学者でもわかりやすいよう、漢字の横には仮名で音読みを記し、和名と漢文による説明をその下に記している。採録された項目語数は1,484にのぼり、天文・地理・居処・人物・身体・衣服・宝貨・器用(4巻)・畜獣・禽鳥・龍魚・蟲介・米穀・菜蔬・果蘆・樹竹・花草といった意義分類で構成されている。元禄8年(1695)に出版された第二版『頭書増補訓蒙図彙』では雑類を加えて21巻10冊となっただけでなく、複数の図をひとつにまとめて大きく描き、図の中に名称(漢字、音読み、和名)を書き、説明は上部に小さく書くように、字体と様式とが大きく変わった。そして初版が出て以来百二十年あまり、第三版『頭書増補訓蒙図彙大成』が出版されたのは寛政元年(1789)で、すでに編者中村惕斎の亡き後であった。これも第二版の形式を踏襲し、増補改訂を加えた21巻10冊からなっている。

このような挿絵付きの漢和両語による啓蒙書は日本国内だけの流布に止まらず、日本に関心を持つ外国人にとっても手ごろで便利、かつ視覚的に楽しめる入門書として重宝されている。元禄3(1690)年に来日し、2度の江戸参府を経て、1692年に離日した和蘭商館の医者ケンベル

(Engelbert Kaempfer, 1651-1716) は自著『日本誌』(The History of Japan, 1727) に『訓蒙図彙』から多くの名称を用いただけではなく、動物を中心とした挿絵も寛文版(後刷り)から模写したことが知られている¹⁾。これが海外での初めての紹介であり、18世紀において日本を知るために利用されている。

19世紀に入り、挿絵の豊富さからこの『訓蒙図彙』は相変わらず西洋人にとって人気の書物の一つであり、来日した歴代のオランダ商館の関係者もこぞってこの本を自分のコレクションに入れている。その利用が言語、芸術などの面において本来もっと活発になるはずであったかと推測はするものの、意外にもその実態が伝わってきていない。

ケンペルの『日本誌』が出版されてから百年経った1827年2月の初めごろ、いつもながら長崎からの船がオランダ東インド会社の本拠地であるバタビヤに寄港した。オランダ商館長の任を終えたステュルレル(Wilhelm de Sturler, 1773-1855)が降り立った。このバタビヤに、ロンドン伝道会のプロテスタントの宣教師メドハースト(Walter Henry Medhurst, 1796-1857)が居合わせていた。この出会いによって、日本に行ったことのない彼ははじめて日本語で書かれた書物に接することができた。そして借り写したこれらの書籍は三年後に出版された『英和和英語彙』(1830)の直接な参考書になったのである。

2. 『頭書増補訓蒙図彙大成』(1789)との接点

陳前稿(『経済研究』235号)で紹介しているように、メドハーストの書簡(1827.7.20)には具体的に『頭書増補訓蒙図彙大成』の書名は挙がっていない。しかし、写した辞書類を順番に挙げている中で、第4、第5点目の漢字部首による配列の漢和字書に続いて、第6点目の、別の配列方式に

1) 早川(2003), <https://www.ndl.go.jp/nichiran/s2/c1.html> を参照。

よる漢和辞書として説明されているのがおそらくそれに当たるだろうと推定している。

当時の部首以外の漢和字典といえば、中国伝統的な天文地理で始まる意義分類による配列をさすものが多い。『訓蒙図彙』(1666)をはじめ、伊藤東涯『名物六帖』(1726)や『学語編』(1772)や『南山俗語考』(1787)などが挙げられる。中でも『訓蒙図彙』は絵入で基本的に儒学の勉強の入門書として一番流布していることが先学によって明らかにされている²⁾。

また、ステュルレルの蔵書が彼の死後ホフマン (Johann Joseph Hoffmann, 1805-1878) 経由でライデン大学とフランス国立図書館に送られたことが知られている。『オランダ国内所蔵明治以前日本関係コレクション目録』(1996)によれば、p. 364-365 の 858 番に寛文、元禄、寛政の三版『訓蒙図彙』がある。寛文版、元禄版はそれぞれ1点だったのに対して、寛政版だけでも6点あり、もう一つの1850年の後刷り本を含めると7点となる。計9点がオランダ国内に所蔵されていることがわかる。しかしこの目録からもとの所蔵者情報を得ることができないため、国文学研究資料館編の『シーボルト日本書籍コレクション現存書目録と研究』(2014)によると、全部で5点が載る。159番の第二版(元禄版)を除いて、他は第三版の寛政版であって、同じオランダ商館員のフィッセルの蔵書票のある160番と574番とが含まれていることを考えれば、シーボルトは少なくとも三点(159, 573, 746)を所有していたことになる。そのうちの1点は小杉(1992)の紹介したパリ国立図書館所蔵の24番であり、同じく寛政版で、それはシーボルトの後任のビュルガーが持ち帰ったものであろう。そしてライデン大学所蔵の2点は以下のような書誌となっている。

159 『訓蒙図彙』 KINMŌ ZUI SER2

中村惕斎編。半紙本合三冊(もと七冊。二～四冊目合綴、五～七冊目合

2) 勝又基(2002), 相田満(2019)

綴)。二一卷。縦二一・八糎，横一六・二糎。縹色表紙。題簽「増補頭書訓蒙図彙叙目録」(下部破れ)，「増補頭書訓蒙図彙 天文一居處三」(下部破れ)，「増補頭書訓蒙図彙 人物四身体衣服六宝貨七」(下部破れ)，「増補頭書訓蒙図彙器用八九 三」，「増補頭書訓蒙図彙 器用十十一 四」，「増補頭書訓蒙図彙 樹竹十九草花廿雜類廿一 七」。元禄八年孟春穀旦刊。求板奥付，京都・菊屋七郎兵衛。墨摺り。(首)三五・五丁，(一)二二丁，(二)二五丁，(三)一六丁，(四)二五丁，(五)二二丁，(七)二四・五丁。(序)寛文丙午秋七月，惕斎。

*石版リスト「2 頭書増補訓蒙図彙廿一卷」。付箋「Ⅲ no.1」。スタンプ「VERZAMELING VON SIEBOLD」，「RIJKS ETHNOGRAPHISCH MUSEUM」。

160 『訓蒙図彙』KINMŌ ZUI SER2a*

中村惕斎編。半紙本一〇冊。縦二二・五糎，横一五・七糎。浮線綾散らし黒色表紙。題簽「増補頭書訓蒙図彙大成口(ヤブレ)(二・三・四・五・六・七・八・十)」。寛政元年三月刊。京都・九臯堂寿梓，村上勘兵衛，出雲寺文治郎，今井七郎兵衛，額田正三郎，勝村治右衛紋，泉太兵衛，小川太左衛門，小川源兵衛，谷口勘三郎。墨摺り。奥付に京都・津逮堂吉野屋仁兵衛の広告あり。(一)二九丁，(二)二四丁，(三)二八丁，(四)二四丁，(五)三二丁，(六)二八丁，(七)二二丁，(八)二八丁，(九)二四丁，(一〇)二五・五丁。(序)戊申冬十一月望，越前中丸光撰，寛文丙午秋七月惕斎識(自序)，天明元辛丑之夏謙斎序。(跋)己酉四月春莊瑞隆。

*フィッセル蔵書票「No. 7」。ペンによる書入れあり。

これによると，159番は元禄版で，ほかならぬシーボルトの所有である。160番は寛政版で，本来はフィッセルの蔵書である。両方にあるSER2とSER2a*を，元の目録L. Serrurier, Bibliothèque Japonaise: Catalogue raisonné des livres et des manuscrits japonais enregistrés à la Bibliothèque de l'Université

de Leyde (Leiden: E. J. Brill, 1896) で確認してみたところ、次のようにあった。

図1のように『頭書増補訓蒙図彙』が2と2aの二種類あり、奥田(2013)の研究によれば、ライデン大学図書館に3点が所蔵され、上記2点のSer. 2, Ser. 2aに加えてさらに請求記号Ser. 2a*もある。Ser. 2はシーボルトのもので、先に見た国文学研究資料館(2014)の159番と同じであり、いわゆる元禄版である。Ser. 2a*はフィッセル由来と思われる跡があり、上記の国文学研究資料館(2014)の160番と同じであるという。

となると、このSer. 2a『頭書増補訓蒙図彙』こそ、ほかならぬステュレルの蔵書で、ホフマン蔵書リストのA52と同じものである。実際に奥田氏が2010年3月に撮影した画像の提供を受け確認したところ、同じ寛政版ですが、一冊の洋製本に改装されている。巻頭に“E collectione equites J. W. de Sturler”と鉛筆書きがある。したがって、本来ステュレルの蔵書であったSer. 2aは後にホフマン蔵書となったもので、1855年からライデン大学図書館のものとなったわけである³⁾。

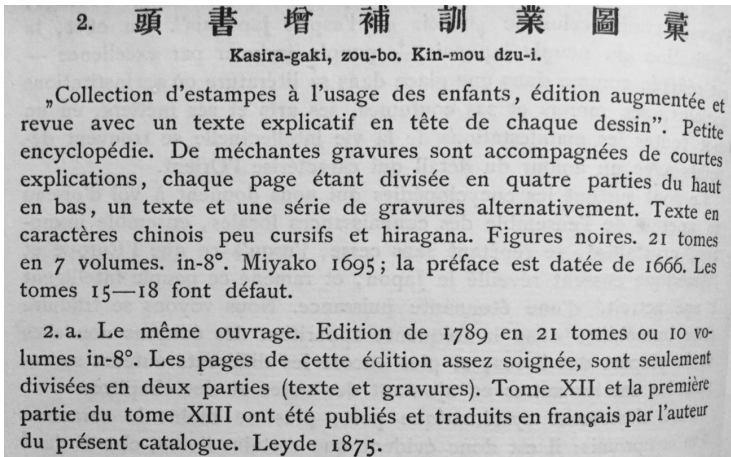


図1 Serrurier 1896

3) 奥田(2013)

つまり、メドハーストの『英和和英語彙』編纂に役立てた書籍のうち、その一冊は、現在ライデン大学に所蔵されている寛政元年の第三版『頭書増補訓蒙図彙大成』であった可能性が高いこととなる。

3. 「英和の部」の意義分類の部立て

メドハーストの辞書は「英和の部」と「和英の部」からなっている。前者は基本的に中国由来の伝統的な意義分類によって配列されている。後者はイロハ順によって並べられている。ここでまず「英和の部」を『増補頭書訓蒙図彙大成』（以下『訓蒙』と略す）など同時代の参考可能な辞書類の部立てと比較してみた（表1）。

メドハーストの『英和和英語彙』（英和の部）は15類に分けられているが、Ⅰ類の宇宙、Ⅲ、Ⅳ類の動植物は他の辞書の類別と対応している。しかも動物内部の内訳においては、配列順が『増廣字便倭節用集悉改大全』（1826）（以下『倭節用』と略す）ともっとも一致している。Ⅱ類の人間は非常に幅広く、他の辞書の大半の類をカバーしている。Ⅴ、Ⅵ、Ⅶは『英和和英語彙』の独自性を示しているのに対して、Ⅷの数、Ⅸ以下の品詞類はそれぞれ『倭節用』の「数量」と「言語」とに対応している。全体から見れば、節用集の意義分類が影響しているようにも見受けられる。

先学の研究でもその可能性を指摘している。加藤・倉島(2000)では、
分類語彙といえは『節用集』が念頭に浮ぶ。15世紀中葉の成立とされるが、様々な増補や改訂をへて、近世では多様な体裁と規模を備えてその数も500位あったという。従って Medhurst の参考資料の中にもあった可能性は考えられよう。

英和の部については ‘The arrangement in the former part of the vocabulary is according to subjects, so that all the words of the same class may be found together.’ (iv) と主題別にした理由を述べている。Stefan Kaiser 氏は両部の構成について、Medhurst は和英の部をまず作り、そ

『訓蒙図彙』の海外流布と利用

表1 『英和和英語彙』和英の部の意義分類

『英和和英語彙』 1830	『訓蒙』 1789	『蘭語譯撰』 1810	『倭節用』 1826	蛮語箋 1798
I 宇宙 1 天体 2 地球上の事物	天文 地理	天門 (天文) 地理	乾坤	天文 地理
II 人間 1 身体 欠陥と疾患 2 精神とその機能 3 間柄 4 社会階級 5 職業と仕事 6 住居 7 食品 8 衣服 9 家財 10 農機具 11 道具類 12 陸軍関係 13 海軍関係 14 商業関係 15 貨幣・度量衡 16 時間と季節 17 宗教 18 抽象語, その他 (261)	身体 人物 居処 衣服 器用 (4 卷) 宝貨	身体 人品 家倫 宮室 官職 飲食 衣服 器用 文書 錢穀 時令 神仏	支体 人倫 官位 衣食 器財 名字 時候 神祇	身体 人倫 宮室 飲食 服飾 器財 玉石 時令 神仏
III 下等動物 1 鳥類 2 獸類 3 昆虫類と爬虫類 4 魚類	畜獸 禽鳥 龍魚 蟲介	動物 ⁴⁾	鳥 獸 虫 魚 気形	鳥部 獸部 魚介虫部
IV 植物界 1 樹木 2 果実 3 穀類と豆類 4 野菜類 5 草本類 6 草花類	米穀 菜蔬 果蘆 樹竹 花草	植物		草木
V 金属と鈹物	雜類 困基, 孔子	采色	数量	金部
VI 医学用語				疾病
VII 色彩				
VIII 数 1 基数と序数 2 数詞 3 数詞関連				数量
IX 形容詞 (723)				言語
X 代名詞				
XI 動詞 (1599)				
XII 副詞 1 時の副詞 2 場所の副詞 3 質の副詞 4 量の副詞 5 比較の副詞 6 順序の副詞 7 疑問の副詞 8 肯定とためらいの副詞 9 否定の副詞				
XIII 接続詞 1 連結接続詞 2 離接接続詞				
XIV 前置 (32)				
XV 間投詞 ABC 順語数 2,628				

4) 『蘭語譯撰』の動物内部は順不同。

ここに集められた単語から英和の部を作ったのではないかと推論している (The Western Rediscovery of the Japanese language Vol. 1, p. 39)

と、節用集の参照の可能性を示しつつ、さらにカイザー(1995)の説を引用し、和英から英和へと、メドハーストの辞書の編集過程にも言及している。

しかし、1827年2月にオランダ語との対訳辞書『訳鍵』『バスタード辞書』『蘭語譯撰』を入手したメドハーストは前記書簡で「私はオランダ語の単語をすべて英語に翻訳して、英語のアルファベットに従って全体のインデックスを作っている」⁵⁾と述べたように、英語による単語の検索を可能ならしめている。言い換えれば、まずアルファベット順による英和の語彙集を作ることが可能になったわけである。なぜ最終的に意義分類の英和の部に落ち着いたかという点、日本語の単語を収集する際に、すでに既成の辞書で共通の意義分類の枠があったため、援用する形になってしまったのであろう。もうひとつは『蘭語譯撰』と節用集のように、イロハ順のなかでもさらに意義分類による区分けがあり、日本では一般的に使われている分類法のような印象を与えている。むしろ、この時代の他の語彙集もこの意義分類の形式に従うものが多い。森島中良の『蛮語箋』(1798)をはじめ、日本最初の英和辞書『語厄利亜興学小筌』(1811)の語彙集「類語大凡」も「乾坤」「時候」「数量」「官位人倫人事」「支体」「気形」「器材」「服食」「生植」「言辞」という10の部門に分けられている。ゆえに、メドハーストにとって東アジア共通の分類法にしたがって単語を集めやすく、また使用の際にも西洋人だけでなく、東洋の人々にとっても利用しやすくなると考えてのことであろう。

したがって、アルファベット順の『訳鍵』と、イロハ順で並べた『蘭語訳撰』の蘭語を英訳してできた英語のアルファベット順によって並べ替え

5) I have translated all the Dutch words into English, making an index of the whole, according to the English alphabets.

た単語帳が先に出来たわけである。事実、表1で示された「英和の部」ではⅡ 18の抽象語 261, Ⅸの形容詞 736, Ⅺの動詞 1,599, Ⅻの前置詞 32の2,628語にわたって、それぞれ内部ではアルファベット順に並べられている。それは「英和の部」に収録されている4,948語の53.1%も占めている。残りの半分くらいの語は東洋古来の意義分類となっていてそれぞれの部たてで重要度の高いことばをバランスよく拾うことができる。こういう折衷的な配列方法は、考えようによっては、一石二鳥を狙ったものである。日本人や中国人をも読者と想定して、意義分類の細目で日本語から英語をさがすことができ、また抽象語、形容詞、動詞の区分で英語から日本語を検索するのも便利なもので、二役を果たすことができる。

ところが、いざ日本語の原書に接すると、知らない日本語の語形に出会ってしまうため、どうしてもイロハ順に対応できる、いわゆる和英の部が求められることとなった。一年後の1828年7月の手紙にはあらたに日本語のイロハ順に並べ替えたことを報告しているのだから、この辞書の編集は「英和の部」が先、「和英の部」が後に出来たことがわかる（陳前稿（『経済研究』235号）を参照されたい）。

4. 『頭書増補訓蒙図彙大成』の利用

メドハーストの言語能力が二つの面から彼の辞書編集を助けている。一つはオランダ語から英語への転換、もう一つは中国語から英語への転換である。前者は『訳鍵』『蘭語訳撰』『バスタード辞書』を通して、簡単に英和辞書へのシフトが出来たようである。後者は逆に『訓蒙』や節用集などの漢字語を中国語と見立て、さらにこの絵入の『訓蒙』は彼にとって視覚的な意味確認も可能ならしめているので、自分のいままで培われた中国語の知識をもって日本語を理解することができた。このような有用な言語を身につけていたので、自信をもって辞書編集に挑戦したのであろう。

4.1 動物の類

まず、具体的な例を見てみよう。メドハースト「英和」では皿下等動物の低位分類として「1 鳥類」82語、「2 獣類」82語、「3 昆虫類と爬虫類」61語、「4 魚類」67語を収録している。試みに、その「2 獣類 Beasts」の82語について『訓蒙』と『蘭語訳撰』（以下『訳撰』と略す）と比較しながら下記の表2にまとめた。

『蘭語訳撰』はメドハースト辞書の参考書として知られている。そこに

表2 獣類

	メドハースト『英和』2 獣類	『訓蒙』巻12	『蘭語訳撰』	備考
1	Beast ケダモノ	×けだ物(説明文)	獣ケダモノ	
2	Wild beast モウシウ 猛獣	×	×	俵節用 もうじう
3	Tame beast チクシヤウ 畜生	×	畜類チクシヤウ	
4	Fabulous beast キリン 麒麟	1オ 麒麟きりん	×	
5	Dragon リユウ・タツ 龍	巻14. 1ウ	龍リユウ/タツ	
6	Lion シ、獅子	1ウ 獅子	獅子シ、	
7	Chinese lion カラシ、獅子	×	獅子カラシ、	
8	Tyger トラ・コ 虎	2ウ 虎とら・こ	×	
9	Male do. トラノメス	×	虎雌トラノメス	
10	Female do. トラノラス	×	虎雄トラノラス	
11	Tyger's skin トラノカハ	×	×	俵節用 とらのかは
12	Leopard ヘウ 豹	3オ 豹	豹ヘウ	
13	Elephant ザウ・サキ 象	4オ 象	象ザウ	
14	Elephant's tooth ザウゲ 象牙	×象牙(頭書)	象牙ザウゲ	
15	Rhinoceros サイ 犀	4ウ 犀	犀サイ	
16	Bear クマ	4ウ 熊	熊クマ	
17	Camel ダ・ラクダ 駱駝	9オ 駝らくだのむま	×駝ダ	俵節用 らくだ
18	Wolf ラホカミ	5オ 狼をほかみ	×狼ラ、カミ	
19	Deer シカ	5ウ 鹿	鹿シカ	
20	Buek ランカ	×	牡鹿ランシカ Hinde	
21	Doe メシカ	×	×牝鹿シカノメ	俵節用 めしか
22	Stag カノシカ	5ウ 鹿かのしか	×	
23	Hind カノコ・サラシカ	5ウ 鹿かのこ・×	×	俵節用 さをしか
24	Rein deer ラホシカ	6オ 麋をかじか	×	
25	Mouse deer クシカ	6オ 麋くじか	×	
26	Musk deer ジャカウ 麝香	6ウ 麝じゃこう	麝香ジャカウ	
27	Do. カマリシカ	×	×	俵節用 かをりじか
28	Goat ヤギ	×	×野羊雄ヤギノラス ⁶⁾	
29	Sheep ヒツジ	6ウ 羊	羊ヒツジ	
30	Swine ブタ	7オ 豕	豕ブタ	
31	Boar ラブタ	×	×	
32	Sow メブタ	×	×	
33	Wild hog ヤマブタ	7オ 山猪やまぶた	×	
34	Do. イノシ、野猪	7オ 野猪	猪イノシ、	
35	Pig イノコ	7オ 豚いのこ	×	
36	Porcupine クサブ	11オ 刺鼠くさぶ	×	
37	Cattle キウバ 牛馬	×	×	俵節用 ぎうば
38	Cow kind ウシ	8ウ 牛	牛ウシ	

6) 『蘭語訳撰』は「野羊」をもって Bok/Geit に対訳しているが、その Geit できらに『訳撰』に当たると、「山羊」を得る

『訓蒙図彙』の海外流布と利用

出ている語形がメドハースト辞書との一致が認めれば、優先的に出処として考える。となると、この「2 獣類 Beasts」の 82 語に絞ってみると、過半数の 44 語が『蘭語訳撰』から取っていることが言えよう。一方、『訓蒙』巻 12 の「畜獸」に収録された 67 語のうち、54 語がメドハースト「英和」と重なるが、『蘭語訳撰』に×のついた 38 語についてみると、『訓蒙』にある「麒麟きりん、虎とら・こ、狼をほかみ、鹿かのしか、麁かのこ、麋をかじか、麋くじか、山猪やまぶた、豚ゐのこ、蝸鼠くさぶ、牝牛めうし、

39	Cow	メウジ	8ウ	牝牛めうし	×	
40	Bull	ヲウジ	×		×	倭節用 をうし
41	Dun cow	アメウジ	8ウ		×	倭節用 あめうじ
42	Buffalo	スイギウ	水牛	×	水牛スイギウ	
43	Calf	コウジ	8ウ	犢こうし	×	
44	Horse	ウマ・ムマ	馬	7ウ	×・馬むま	馬ムマ
45	Stallion	ラムマ		×		牡馬ラムマ
46	Mare	メムマ		×		牝馬メムマ
47	Colt	コマ	7ウ	駒		駒コマ
48	Ass	ウサギムマ	9オ	驢		驢ウサギムマ
49	Rabbit	ウサギ	11オ	兎		兎ウサギ
50	Fox	キツネ	9ウ	狐		狐キツネ
51	Dog	イヌ	10ウ	犬		犬イヌ
52	Great dog	ヲホイヌ	10ウ			大犬ヲホイヌ
53	Hunting dog	カリイヌ	×			獵犬カリイヌ
54	Hound	タウケン	獒犬	10ウ	獒犬	獒タウケン
55	Shaggy dog	ムクイヌ	10ウ	獵犬むくいぬ		×
56	Wild dog	ヤマイヌ	5オ	豺		豺ヤマイヌ
57	Pup	コイヌ	×		×	倭節用 こいぬ
58	Male dog	ライヌ	×		×	蛮語箋 牡狗
59	Bitch	メイヌ	×		×	
60	Badger	タスキ	10オ	狸		狸タスキ
61	Otter	ヲソ	×		×	倭節用 をそ
62	River otter	カワヲソ	11ウ	獺		獺カワヲソ
63	Cat	ネコ	9ウ	猫		猫ネコ
64	Tom cat	ヲネコ	×		×	
65	Monkey	マシラ	11ウ	猴ましら		×
66	Baboom	ビヒ	13オ	狒々ひひ		×
67	Orang outang	シヤウジヤウ猩猩	13オ	猩猩		猩猩シヤウジヤウ
68	Ape	サル	11ウ	猿		猿サル
69	Long-tailed do.	ヲナカサル	×		×	雑字類編 ヲナカザル
70	Squirrel	リス	12オ	貂		栗鼠リス
71	Flying do.	ムサラビ	12オ	鼯むさらび		×
72	Mole	ウゴロモチ	13ウ	鼯うごろもち		×鼯鼠ムグラモチ
73	Weasel	イタチ	13ウ	鼬		鼬鼠イタチ
74	Rat	ネズミ	13ウ	鼠		鼠ネズミ
75	Field rat	ツチネズミ	×		×	倭節用 つちねずみ
76	Mouse	コネズミ	×		×	倭節用 こねずみ
77	White mouse	シロネズミ	×		×	倭節用 しろねずみ
78	Tail	ヲ	巻13. 25ウ	尾		尾ヲ
79	Horn	ツノ	13ウ	角		角ツノ
80	Tusk	ゲ・キバ	13ウ	牙		牙キバ
81	Mane	タテガミ	13ウ	鬃たてがみ		×
82	Hoof	ヒヅメ	13ウ	蹄		蹄ヒヅメ



図2 『訓蒙』巻12の13ウ

犢こうし、獵犬むくいぬ、猴ましら、狒々ひひ、鼯むさらび、鼯うごろもち、駿たてがみ」の18語がメドハーストに利用された可能性が大であろう⁷⁾。『訓蒙』にも『訳撰』にもない残りの20語は備考欄に示したように、『倭節用』など、他の辞書から拾った可能性が高い。

何よりもメドハーストの「英和の部」各類の内部における言葉の配列順が基本的に『訓蒙』に出てくる順番に準じて並べられていることが多い。たとえば、表2の『訓蒙』巻12の丁数が1～13の表(オ)と裏(ウ)にわたる語はほぼメドハースト「英和」の収録語と同じ順序にあって、特に最後の13ウにある7語は、72番の「ウゴロモチ」以下、ハツカネズミを除いてほぼ全部図2の『訓蒙』巻12の最後の13ウから収録していることがわかる。同じようにメドハースト「英和」の60頁(図3)の最初の9語はちょうど鳥禽類の終わりの部分にあたり、『訓蒙』巻13の最後の一葉(図4)にある語からほとんどもれなく収録している(「尾」は表1の最後の78番に移動)。ただ、メドハーストは「シカ」「ブタ」「ムマ」「ウシ」「イ

7) 濁点をときどき清音にしたり、「い・ゐ」を「い」に統括しているメドハースト辞書の実態を考慮に入れている。

60		
Beak	Kfoo-tsi ba-si	クフツシバシ
Wing	Ha-ne, Tsoo-ba	ハネ、ツソバ
Feather	Ha	ハ
Quill	Ha-ne no tsik'	ハネノツキ
Comb	To-sa-ka	トサカ
Claw	Tsoo-me	ツソメ
Nest	Soo	ソウ
Egg	Ran, Ta-ma-go	ラン、タマゴ
Flock	Moo-ra to-ri	モウラトリ

図3 メドハースト「英和」鳥類



図4 『訓蒙』巻13 禽鳥

ス」「ネズミ」など、同じ後接要素の持つ語構成を一緒に並べていく傾向が見られるので、順序の調整が行われている。

そして、メドハーストの語彙採集において『訓蒙』と『訳撰』とは補完関係にある。表2の22～26番、33～36番、または65、66番など『訓蒙』だけの出自の語はもちろんのこと、『訓蒙』にない語を、1、3、6、7、9番と33、34、35、36と45、46番のように『訳撰』から語形と意味を補うことが多い。両方ともに出ている語であっても、『訓蒙』で絵とともに語の読みと意味を確認し、片仮名を使っている『訳撰』によって正しい片仮名の語形を確認できる。イロハ順に並べられ、蘭語との対訳、しかもメドハーストの英訳も付けられるようになった『訳撰』は、言葉を補充するときに意味と形態との両方から保証されるから、『訳撰』にある語を形態上優先的に採用している傾向が見られる。理由はもちろん片仮名表記という書きやすさと読みやすさによるものであろう。

4.2 植物の類

メドハースト「英和」ではIV植物界の下位分類として、「1 樹木」「2 果実」「3 穀類と豆類」「4 野菜類」「5 草本類」「6 草花類」をあわせて全部で201語を収録したが、そのうちの「2 果実」(38語)、「3 穀類と豆類」(26語)について表3にまとめてみた。

表3 植物：2果実、3穀類と豆類

	メドハースト [英和] 2果実	【訓蒙図彙】巻18	【蘭語訳撰】	備考
1	Fruits クダモノ	1 オくだものたぐひ	果クタモノ*	
2	Apricot アンズ・カラモ、	1 オ杏	杏アンズ・×	
3	Peach モ、	1 オ桃	桃モ、	
4	Plum ムメ・ウメ	1 オ梅・×	梅ムメ・×	
5	Plum blossom ウメノハナ	×	×	倭節用 うめのはな
6	Damson スモ、	1 オ李	×	
7	Green gage ウラナシ	1 ウ奈からなし	×	
8	Pear ナシ	1 ウ梨	梨ナシ	
9	Ppple リンゴ	×	×	物品 リンゴ
10	Pumelo ヨ 柚	1 ウ柚	×	
11	Orange クネンボ	1 ウ柑	香橙クネンボ	
12	Do. カウジ 柑子	×	×	物品 カウジ
13	Sweet orange タイダイ・カブス	×	橙ダイダイ・×	
14	Do. タチバナ	2 オ橘	×	
15	Small orange ユラダチ	×	×	物品 カラタチ枸橘
16	Lime ボダイシユ	×	菩提樹ボダイジユ*	
17	Citron プシユカン 佛手柑	3 オ佛手柑	香橙プシユカン	
18	Chesnut クリ	1 ウ栗	栗クリ	
19	Small do. ハシバミ	2 オ榛	×	
20	Date ナツメ	1 ウ棗	棗ナツメ	
21	Sour do. ナハシロクミ	×	×	倭節用 なはしろぐみ酸棗
22	Pistache nut カヤ	2 オ榧	茅カヤ*	
23	Pomegranate ザクロ	2 ウ石榴	×	
24	Grapes ブドウ 葡萄	2 ウ葡萄	葡萄ブドウ	
25	Cherry サクラ	×	櫻サクラ	
26	Fig イチヂク	×	無花果イチヂク	
27	China do. ガキ	2 オ柿かき	×	
28	Olive ハボリ・タンバ	×	臙八樹ハボソ・×	ハボソの誤記
29	Walnut クルミ	3 ウ胡桃	胡桃クルミ	
30	Papaya ボケ	3 ウ木瓜	×	
31	Nutmeg ニクツク	×	肉豆蔻ニクツク	
32	Plantain オバコ・バセヲ 芭蕉	×	× 卷.20. 17 ウ芭蕉	
33	Fruit of the fir ユラマツノミ	4 オ松子からまつのみ	×	車前 初版 俗音、ばせを
34	Loquat ビハ 枇杷	3 オ枇杷	×	
35	Li-chi レイシ 荔枝	3 オ荔枝	×	
36	Leng keng リウカン 龍眼	4 ウ龍眼	×	
37	Almond アメンダウ	×	巴旦杏アメンダウ	
38	Strawberry イチゴ	3 オ苺	苺イチゴ	

	メドハースト 3穀類と豆類	【訓蒙図彙】巻16	【蘭語訳撰】	備考
1	Grain コクノルイ 穀之類	1 オ穀の類	×	
2	Early grain ワセ・イネ	1 オ早稲・	×・稲禾イネ	
3	Latter do. ラクテ	1 オ晚稲	×	
4	Paddy アワ	1 ウ粟	梁アワ	
5	Rice ヨメ (「コム」の誤記)	1 オ米こめ	米コム	和英 ヨメ 293 コメ
6	Glutinous do. モチノヨメ	1 オ糯もちのこめ	×	和英 モチノヨメ
7	Wheat ムギ	2 オ麥	大麥ムギ	
8	Barley ヲホムギ	×	×	倭節用 おほむぎ大麥
9	Buck wheat ソバ	2 オ蕎麥	蕎麥ソバ	
10	Maize ナンバンキビ	4 オ玉黍	×	
11	Rye キビ	1 ウ黍	黍キビ	
12	Millet タウキビ	4 オ蜀黍	×	
13	Pulse マメ	3 オ菽	豆マメ	
14	Broad beans ソラマメ	3 オ蚕豆	蚕豆ソラマメ	
15	Sword beans ナタマメ	4 オ刀豆	×	
16	French beans アチマメ	3 オ籩あぢまめ	×	
17	Long beans サ、ゲ	2 ウ豇	×	
18	Wild beans ノマメ	×	×	物品 ノマメ
19	Peas ノラマメ	2 ウ豌豆	×	
20	Green gram フンドウ	×	×	物品 フンドウ緑豆
21	Bean pod マメノサヤ	4 ウ莢	×	
22	Ear of corn ホ	4 ウ穗	穂ホ	
23	Stalk ウルシネ	1 オ稈	×	
24	Straw ワラ	4 ウ藁	稲藁ワラ	
25	Wheaten do. ムギハラ	×	麥稈ムギハラ	
26	Hay カレクサ	×	枯草カレクサ	

『訓蒙図彙』の海外流布と利用

メドハースト「英和」の「2 果実」「3 穀類と豆類」は、それぞれ『訓蒙』巻18「果蔬」、巻16「米穀」から言葉をとっていることがわかる。しかも表2と同じように、『訓蒙』の語の配列順ともきわめて近い関係があると考えられる。

「2 果実」の38語のうち、過半数の21語が『蘭語訳撰』と重なる。『訓蒙』から取った可能性のある語は6, 7, 10, 14, 19, 23, 27, 30, 32, 33, 34, 35, 36の13語である。「3 穀類と豆類」では、そもそも1番の「コクノルイ 穀之類」とは一語にならず、直接『訓蒙』巻16の冒頭にある「此部には五穀の類すべく…」という文言から切り取ったものであろう。1~3, 6, 10, 12, 15~17, 19, 21, 23番のように、12語はほとんど『訓蒙』巻16「米穀」から語を採録し、『訳撰』からとっている語数と拮抗している。表2と同じように、『訓蒙』と『訳撰』とで補完関係をしていて、両方ともにない語を備考欄にある他の辞書から補充している。植物に関して参考書の一つとされる「物品」（『物品識名』）に由来するものが多いように見える。

表2の動物の類と表3の植物の類におけるメドハースト「英和」と『訓蒙』との具体的な関係を下記の表4にまとめることができよう。

これによると、メドハースト辞書のⅢ下等動物では『訓蒙』からの採用語数が18で高い比率とは言えない。一方、Ⅳ植物界「3 穀類と豆類」に所収される26語が『訓蒙』からの24語と90%重合し、もっとも関係が近いことが示されている。そのうちの半数（12語）が『訓蒙』からくる可能性が高いことになる。

表4 『訓蒙』からの採用語数

メドハースト「英和」収録語数	『訓蒙』との重合語数	メ採用語数	『訳撰』との重合
Ⅲ下等動物 2 獣類 (82 語)	巻12 畜獣67の54	18	48 語
Ⅳ植物界 2 果物 (38 語)	巻18 果蔬62の25	13	21 語
3 穀類と豆類 (26 語)	巻16 米穀35の24	12	12 語

最後に、動物と植物から一語ずつ選んで、『訓蒙図彙』から採録した可能性を検証することによって、メドハーストの辞書との関連を裏付けてみたい。

加藤・倉島(2000)で疑問点の一つとして、古語の「カラスヘミ」がなぜメドハーストの辞書に採用されたかということがある。実は寛文版『訓蒙図彙』(1666)の「烏蛇」の右ルビは「うじゃ」、和語が「カラスヘミ」となっている。元禄八年刊『頭書増補訓蒙図彙』(1695)では「からすへ



図5 寛政版「からすへみ」



図6 寛政版「いばらしやうび」

び」へと変わったものの、図5のように、寛政版『頭書増補訓蒙図彙大成』(1789)ではまた最初に戻って「カラスヘミ」としている。この「カラスヘミ」は他の類書に見られず、節用集のほとんども「からすへび」となっている。

他にも「イバラシヤウビ」という語は、メドハーストが英和の部において、roseの対訳として音訓両表記の「イバラシヤウビ」に当てていた。和英の部も英語と日本語を反転するだけで、両者を一語のように捉えていた。それを念頭に入れてみれば、寛文版『訓蒙図彙』(1666)には「しやうび」が漢字語「薔薇」の音読みルビとして附してあり、「いばら」が語釈の語でしかない。その後の元禄八年刊『頭書増補訓蒙図彙』(1695)と寛政版『頭書増補訓蒙図彙大成』(1789)では「いばらしやうび」を一語と見たてている(図6)。『蘭語訳撰』でもただ「薔薇イバ

ラ」を挙げるだけにとどまっていた、音読みの「シヤウビ」は示されていない。

この三つの版を見比べると、「カラスヘミ」に関して初版と三版は同じであるが、「イバラシヤウビ」については二版と三版は同じである。いずれにせよ、メドハーストの辞書における両語は三版にあたる寛政版『頭書増補訓蒙図彙大成』(1789)によるところが大であろう。

全体から見て、次のような点が指摘できると思う。

1. メドハーストは中国語の知識によって『訓蒙』から順に重要な語を抜き出し、同じ意義分類の語彙集に配置し、対訳を行っている
2. 『訳撰』は漢字熟語と蘭語という二つの意味確認の要素を備えていて、しかも片仮名表記の日本語なので使いやすい。
3. 「リユウ・タツ」「コ・トラ」「ゲ・キバ」「ラン・タマゴ」など音訓両様の場合も『訓蒙』に由来するものが多く、節用集から取ったものもある。両者の使い分けについての知識は『英和和英語彙』の序文にもみられるが、全体として弁えていないところが多いと見られる。
4. 『訓蒙』と『訳撰』とで言葉が重なるとき、語形の選択が「英和の部」と「和英の部」とで異なる場合がある。つまり一か所から選ばれたものではない。
5. 『訓蒙』と『訳撰』の両方から言葉が出てこない場合は、第三のソースを辿る必要がある。他の底本の可能性をも模索しなければならない。たとえば、表2、3の備考欄に挙げられる『倭節用集』『物品』などが候補として考えられる。さらにローマ字による読みを確定させた蘭和辞書の存在がクローズアップされてくる。

4.3 ケンペルの影響があるか

バタビヤにいるメドハーストはむろん日本や日本語に関する先行研究の状況を把握していた。ステュルレルの書籍を写してから一年半経ったころ、

彼はロンドン伝道会へ送った書簡 (Medhurst to the Directors. Batavia, 22 July 1828. 3. A.) では、ケンペルの下記の本 (図7) を取り寄せていることがわかる⁸⁾。実際に彼の手にケンペルの本が届いたかどうかは分からないが、ここで具体的にケンペルの研究が利用されたかどうかを検証していく必要がある。

ケンペルの『日本誌』については先行研究も多い。杉本 (1975) によると、植物 310 種のうち、271 種を漢字で引用しているという。それに対して、動物の類では、区分別に獣 52 + 鳥 52 + 魚 48 + 介 76 = 228 項目となっているが、実際にケンペルの著書の挿絵に採録されたのは獣 4 + 鳥 4 + 魚 17 + 介 17 = 42 項目である。ヨーロッパで知られる鳥獣の類はほとんど収録せず、架空の、想像上のものを収録するにとどまっている。たとえば、最初の禽獣類の三語「麒麟、獬豸、騶虞」、禽鳥類の四語「鳳凰、杜鵑、鴛鴦、鸚」は、いずれも欧州ではあまり知られていないものであろう。対して、魚介類はわりと細かく収録し、未知の世界への探求心を垣間見る

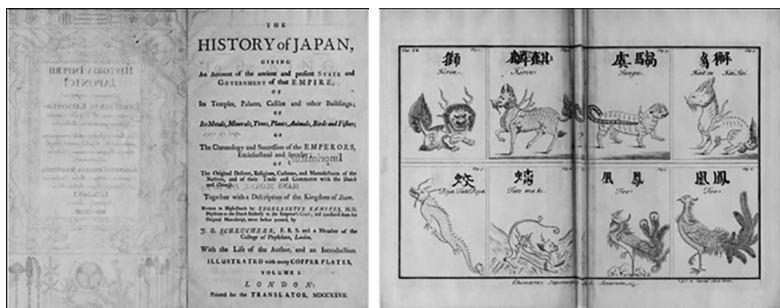


図7 ケンペル『日本誌』

- 8) But while I am anxious to procure as many books as I possibly can from Japan, I would not forget to avail myself of what has been already published in Europe on the subject — and as you must see the necessity of such works to aid me in my present undertaking, I need scarcely press it on you to send me the following books, by the very first opportunity, viz.
4. E. Kampfer, de Beschrijving van Japan, 's Hage. 1729.

『訓蒙図彙』の海外流布と利用

表5 ケンペル『日本誌』との比較

『訓蒙図彙』	『蘭語訳撰』	ケンペル	メドハースト英和	和英
麒麟きりん	×	麒麟 Kirin	Ki rin キリン麒麟	キリン麒麟 Ki lin
獅子しし	獅子シ、	獅 Kirin	Si-si シ、獅子	Si-si
鳳凰ほうわう	鳳凰ホウワウ	鳳凰 Foo?	Ho-oo wa-oo ホウワウ鳳凰	Ho-oo wa-oo
杜鵑ほととぎす	杜鵑ホト、ギス	杜鵑 Foken at Foto tenis	Ho-to-o-gis ホトーギス	Ho-to-o-gi-zoo ホトーギズ
鶇みさご	×	鶇 Misago or Bisago	Mi-sa-go ミサゴ	Mi-sa-go
蛟みづち	×	蛟 Dsjja. Yats Dsjja	Mids' tsi ミヅチ	Mids'oo-tsi
鱧ふか	Haay 鱧魚フカ	鱧 Oo adsi	A white shark Foo-ka フカ	フカ Foo-ka A white shark
鮫さめ	鮫サメ	鮫 Fuka Same	Sa-me サメ	Sa-me
鯉こひ	鯉コイ	鯉 Ko Y	Ko-i コヒ	コイ Ko-i ⁹⁾
鯽ふな	鯽フナ	鯽 Susuki	Foo-na フナ	Foo-na
鰻うなぎ	鰻ウナギ	鰻 Oo unagi	Oo-na-gi ウナギ	Oo-na-gi
鰐やつめうなぎ	×	鰐 Yaatzme Unagi	Yats'-me oo-na-gi ヤツメウナギ	Yats'-me oo-na-gi
鱈どぢやう	泥鰌ドジヤウ	鱈 Dodsjo	Do zi-ya-oo ドジヤウ土鰌	Do zi-ya-oo
烏賊いか	烏賊イカ	烏賊魚 Yka	I-ka イカ	I-ka
江猪いるか	×	江猪 Y rukw	Ir'-ka, Si-bi イルカ。シビ	I-roo-ka
龜かめ	亀カメ	龜 Ysicame Sanki	Ka-me カメ Rock turtle I-si ga-me イシガメ	カメ Ka-me イシガメ I-si ga-me A rock tortoise
蛤はまぐり	×	蛤 Famaguri	Guarana Ha-ma-gfoo-ri ハマグリ	ハマグリ Ha-ma-gfoo-ri
鰻あわび	鰻魚アワビ	鰻 Awabi	A-wa-bi アワビ	A-wa-bi
蟒やまか々ぢうはばみ	×	蟒 Jamakagats Uwabami	Ya-ma ka-katsi ヤマカ、チ Oo-ha-ba-mi ウハバミ	ヤマカバチ Ya-ma ka-gatsi ウハバミ Oo-ha-ba-mi
蜈蚣むかで	蜈蚣ムカデ Duyfend voet	蜘蛛 Mukadde	Centipede Moo-ka-de ムカデ	ムカデ Moo-ka-de A centipede
蟬せみ	蟬セミ	蟬 Sebi	Ab', Se-mi アブ。セミ	Se-mi
蝶蜥いもり	守宮いもり・ やもり	蝶蜥 Ymori	Lizard I-mo-ri, Ya-mo-ri	I-mo-ri, Ya-mo-ri lizard
毛龜もうき	×	毛龜 Mooki or Minogame	×	Mino ga-me

ことができる。

42語のうち、メドハーストの辞書と重なるのは半分、次の23語である。「麒麟、獅子、鳳凰、杜鵑、鶇、蛟、鱧、鮫、鯉、鯽、鰻、鰐、鱈、烏賊、江猪、龜、蛤、鰻、蟒、蜈蚣、蟬、蝶蜥、毛龜」、下線を引いた8語は、『訳撰』では収録していない語である。

上記の表5において、まず、全体として『訳撰』に収録されていない8語の語形は『訓蒙』と同じである。そして漢字や片仮名の語形よりは、メドハーストにとって一番必要なのはケンペルの日本語のローマ字表記であ

9) 「鯉」について、英和では『訓蒙』の「コヒ」を、和英では『訳撰』の「コイ」を採用。ローマ字表記は同じである。

ろう。

ただ、メドハーストのローマ字表記において英和と和英が異なる場合が多い。「麒麟」では r と l のように異なる。「杜鵑」の場合、前者はホトーギス、後者はホトーギズと最後の発音を濁音にしている。一般に、この『英和和英語彙』の長音符は「フコー」のように発音通りを意味するものであるが、実は多くの場合、繰り返し符号「・」を書き写す際の間違ひによるものであろう。「蛟みづち」も、「江猪いるか」も英和と和英が異なる。「蟒やまか々ち」もローマ字表記は英和と和英が異なる。和英のほうの濁音表記はケンベルを継承したようである。もう一つの言い方「うはばみ」について、ケンベルのほうはハ行転呼音で wa を使っているのに、メドハーストは字面通りに ha としている。「鰻」についても、ケンベルは「おおうなぎ」のつもりでローマ字 Oo unagi をつけるが、メドハーストはいつも「oo」で「う」を写しているから、Oo-na-gi となっている。

つまり、23 語のうち、ケンベルのローマ字表記と同じなのはわずかに Kirin, Mi-sa-go, Sa-me, Mino ga-me の 4 語である。そのことから見ればケンベルのメドハーストへの影響はほとんどなく、せいぜいローマ字表記を確かめるための参考に止まっていたものと考えられる。

5. 広東に渡った『訓蒙図彙』

八耳俊文(2005)「入華プロテスタント宣教師と日本の書物・西洋の書物」では19世紀半ばごろ中国へ渡った日本の書物を扱っている。そこで注目したのは1840年広東で発行されるプロテスタントの宣教師の情報誌『中国叢報』(The Chinese Repository, 第9巻1840.6)のpp. 86-89-101にわたるイニシャルWによる記事である。そこには、『鼓銅図録』の紹介と翻訳のほかに、日本から伝わった9冊の書物についての概要を載せている。最初に紹介したのはこの『頭書増補訓蒙図彙』であった。

I. Kashira gaki zoū ho. Kin Moū dzu i 頭書増補訓蒙図彙, or First book in

Instructing Youth, with additions; the plates arranged into chapters. Twenty-one chapters bound up in 10 volumes. First year of the renga of the emperor Kwanshei, 1789. This work is composed of plates with very short explanations printed at the top of the page. The pictures are in good style, and with the corresponding explanations, cannot fail to be fully understood by the tyro. Along with instruction in his own language, it was apparently intended to teach the lad the Chinese name of the article, or whatever else is represented, and thus the book can be availed of by a Chinese scholar in learning Japanese. (最初の本は子供への啓蒙書であり、21巻10冊。寛政元年(1789)。ページの上部に短い解説が印刷されている。絵が良く描かれており、それに対応する説明があれば、子供にも十分に理解されるはずである。この本は、日本語の指導とともに、中国語の名称などを教えることを目的としているようで、中国の学習者が日本語を習う際にも活用できる。)

ここでもやはり絵入の良さをもって入門書とされている。しかも、漢和対照で、意義分類でも言葉を選びやすいし、中国の人にとって日本語を学習する際の参考になりうると紹介している。前述したように、メドハーストの英和の部を意義分類にしたのも同じ狙いによるものと思われる。

執筆者のWについて、八耳(2005)は『中国叢報』の編集者サミュエル・ウェルズ・ウィリアムズ(Samuel Wells Williams, 中国名:衛三畏, 1812-1884)と考えている。ウィリアムズは日本人漂流者から日本語を学び、マタイ伝の日本語翻訳を行ったり、日本語語彙表を作成したりするなど日本語の知識も有していた。1837年には日本人漂流民送還のためアメリカ商船モリソン号に乗船して日本に向かったが、当時日本では異国船打払令が出されていたために、沿岸から砲撃を受け、日本に入港は出来なかった。その後、1853年にペリー来航時の日本語通訳を務めたことで日本でも知られている人物である。明治初年に柳沢信大の手で訓点を加えた『英華字彙』(1869)はウィリアムズの英華字典『英華韻府歴階』(English & Chinese

vocabulary in the court dialect, 1844) の和刻本であった。

これらの日本から将来された書物の由来について、その記事にはさらに下記のような気になる説明があった。

Some years after, a few others were brought here from Batavia, which M. Sicbold had presented to his friends there. (数年後、他の数冊がバタビヤから持ち込まれた。それらはシーボルトがそこにいる彼の友人に贈ったものである)。

その数冊の本を特定するにはシーボルトの蔵書にも複本があるかどうかを確認するのがひとつの方法となろう。その他の書名を示すと、*『頭書増補訓蒙図彙』、*『画本鶯宿梅』(1715)、*『古今泉貨鑑』、『女大学宝箱』、『女学則操鑑』、『万花百人一首』、*『東遊記〔前編、後編〕』、漢和辞書、『鼓銅図録』のようである。そのうちシーボルトの蔵書にあるのは『頭書増補訓蒙図彙』『画本鶯宿梅』『古今泉貨鑑』『東遊記〔前編、後編〕』と『鼓銅図録』であった。ただし、『鼓銅図録』の由来について、ここでははっきりとビュルガーの持ち物であったという。すると、シーボルトがバタビヤの友人に贈ったのはおそらく*のついた四点だっただろう。

シーボルトが日本から追放され、バタビヤに上陸した1830年1月28日以降となろう。そこでかれは一か月半ほど滞在した。その友人とはほかならぬメドハーストの可能性が高いと考える。現に両者の間に多数の書簡の往来があったことがすでに八耳(2005)の研究で知られている。なぜメドハーストにそれらの本を贈るかといえば、第二節で見たように、シーボルト自身の蔵書にこの『訓蒙』がすでに三点入っているからである。また、メドハーストが日本に関心を持ち、日本語を習い、『英和和英語彙』の編集も終わりに近い時期であったからであろう。

当のメドハーストも早くからシーボルトの名前を知っているはずで、そもそも彼の日本語についての興味と基礎知識も、シーボルトが1826年バタビヤの雑誌で発表した「日本語要略」という論文に刺激されたものかも

しれない¹⁰⁾。そしてロンドン伝道会への手紙でも度々シーボルトの名前に触れていた。たとえば、シーボルトがオランダへ向かうその年に下記の内容の手紙がある。

Medhurst to the Directors. Batavia, 5 August 1830 3. B.

Some months ago the celebrated Dr. Siebold called on me on his way from Japan to Europe, & earnestly pressed on me to proceed to Europe under the auspices of the Dutch Government & to avail myself of the facilities & materials which he had collected in Japan, (& was then conveying to the Royal Institution in Leyden) for the purpose of studying the Japanese language there. (数ヶ月前、Siebold 博士は日本からヨーロッパに向かう途中、私に連絡し、オランダ政府の援助の下でヨーロッパに行くように熱心に迫ってきた。日本で収集した資料を利用し、そこで日本語を勉強することを)。

一方のメドハーストは上記のように、1827年にすでにステュルレルの蔵書からこの『頭書増補訓蒙図彙』を写し、辞書編集に使用したので、シーボルトから贈られた同書はもう必要性がなくなったであろう。1835年にメドハーストはシンガポールを経由して初めて中国の地に足を踏み入れた。香港、広東にいたころ、ギュツラフとウィリアムズと一緒に、新約聖書の改訂に取り掛かっていた。すでに日本語を勉強していた同じプロテスタントの宣教師に、彼はこれらの書籍を贈ったとも考えられる。つまり、メドハースト自身がこれらの書籍を中国へ持参した可能性が高い。『英和和英語彙』(1830)の出版に続いて、中韓日英の『朝鮮倭国字彙』(Translation of a comparative vocabulary of the Chinese, Corean, and Japanese languages. Batavia. 1835)という辞書も出版している。それ以降、彼の日本語にかかわる仕事は目立たなくなり、主に中国語の聖書改訂と英華華英辞書の編集に力を入れることとなる。

10) 岸本恵実「シーボルトの日本語研究」『新・シーボルト研究Ⅱ』八坂書房、2003

この広東に伝わった『頭書増補訓蒙図彙』の所在は現在中国国内では確認できない。一方、上述の『画本鶯宿梅』は1855年にアメリカで翻訳出版されている。その訳者は不明とされているが、上記の経緯から見て、1876年に米国に戻り、エール大学最初の中国語および中国文学の教授となったウィリアムズの可能性は否定できない¹¹⁾。現に北米で確認できる『訓蒙』(1789)は、中西部の大学図書館に所蔵されたのが5校、東部では国会図書館とエール大学と William And Mary の三か所である。いずれもその由来については未調査であるが、インターネットではエール大学には下記の二点が所蔵されていることが確認できる。

Kashiragaki zōho Kinmō zui

Author Nakamura, Tekisai, 1629-1702. 中村惕斎, 1629-1702.

Title Kashiragaki zōho Kinmō zui. 頭書増補訓蒙図彙.

Published Kyōto : Taniguchi Kanzaburō ... [and 8 others], Kansei 1 [1789]

京都 : 谷口勘三郎 ... [and 8 others], 寛政 1 [1789]

Physical Description 21 v.: chiefly ill.; 23 cm

Notes Caption title.

(寛政元年) 4月・春荘端隆跋。京都吉野屋仁兵衛の求板本を加える、取り合わせ本。いずれも寛政元年板の後摺り本。

On double leaves, traditional East Asian binding style (fukurotoji).

In Japanese. Prefaces in Kanbun with reading marks.

Variant and related titles Kinmō zui 訓蒙図彙

Zōho kashiragaki Kinmō zui taisei 増補頭書訓蒙図彙大成

Also listed under Shimokōbe, Shūsui, 下河辺拾水, -approximately 1797.

ほかに、『画本鶯宿梅』、『古今泉貨鑑』、『東遊記〔前編、後編〕』、そして

11) ピーター・コーニツキー (2018) 『海を渡った日本書籍』(平凡社)も全般にわたって記述のあと、後半は『画本鶯宿梅』を含めプロテスタント宣教師たちの和書収集状況を紹介している。

『鼓銅図録』もエール大学に所蔵されているから、ウィリアムズが持ち帰った可能性は否めないであろう。

6. おわりに

本稿で取り上げてきた『頭書増補訓蒙図彙大成』をメドハーストが活用するためにはいくつかの問題点があった。つまり、江戸後期の代表的な書記法にしたがって、その時代の辞書類に共通する「頭書・真草・両点」の特徴がある。そして、草書体の漢字と平仮名、変体仮名の組み合わせた日本語表記は、メドハーストの日本語能力では的確にそれらをカタカナ表記へ転換できるかどうかという不安が残った。初版にあたる寛文版『訓蒙図彙』のような、楷書の漢字と平仮名交じり文に比べて、三版にあたる寛政版は草書体の漢字と平仮名交じり文のため、日本語の初心者であるメドハーストにとってカタカナによる注釈の書物が必要とされてくる。

鈴木淳 (2014) ではこの時代の資料を表記によって三分類し、それぞれの特徴を紹介している。

- (1) 和漢古典体 (楷書・片仮名) 『和漢三才図絵』
- (2) 和漢崩し字体 (漢字・平仮名崩し字) 『頭書増補訓蒙図彙』
- (3) 漢字中間体 ((1) と (2) の間) 『和漢節用無双囊』

『頭書増補訓蒙図彙』を (2) に位置付けるように、外国人にとっても読み書きのしにくい表記であることは間違いない。一方、『蘭語訳撰』や『物品識名』はむろん (1) に位置していて、理解されやすいものである。節用集の類は (3) に位置しているようで、たとえば『倭節用集悉皆大全』(図8) の場合、漢字の字体には草書と楷書の二種類があり、ルビも平仮名と片仮名がある。メドハーストにとって

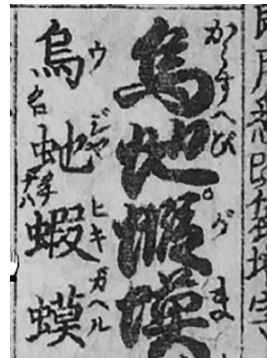


図 8

は資料の解読のために様々な表記を扱う必要に直面することとなる。それを解消する方法は一つある。つまり、まず(2)『頭書増補訓蒙図彙』のような単純に挿絵と漢字表記によって実物と名称との同定を行い、日本語の平仮名の部分を読めなくても、和漢古典体の漢和辞典の類(たとえば『増続大広益会玉篇大全』)を通して、漢字表記から和語の片仮名表記を得ることができる。あるいは『倭節用集悉皆大全』にある片仮名ルビはメドハーストにとって読みやすいものであったかもしれない。

『頭書増補訓蒙図彙大成』という日本で流布している確かな書物は、「天文、地理」といった中国伝統的な意義分類や漢字表記と絵入の相乗効果などで19世紀初頭の宣教師たちの日本語学習と日本認識の形成に役立ったことは言うまでもない。本稿は、バタビヤにいるメドハーストが『頭書増補訓蒙図彙大成』(1789)を入手し、いかに自分の『英和和英語彙』の編集に利用したのかを検証した。彼自身が言ったように「編者は日本人の手になる入手しうる最上の著作物に厳密に従った」ことの証明にもなった。そしてメドハーストの辞書編集という外側からの視点を通して当時の日本語の実態を把握することができるだけでなく、オランダ語・英語・中国語・日本語という言語接触の一環をもより鮮明に反映させることができたと思う。

【参考文献】

- 相田満(2019)「『訓蒙図彙』の意匠と変容—幼学・啓蒙書から百科全書への変容を位置づける」, 国際日本文化研究センター(発表資料), 2019年8月7日
- 石上阿希(2021)『江戸のことは絵事典—『訓蒙図彙』の世界』(角川選書647), 2021年3月
- 石上阿希・山田奨治編著(2021)『文化・情報の結節点としての図像—絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』晃洋書房, 2021年3月
- 奥田倫子(2013)「日本語学者ヨハン・ヨーゼフ・ホフマン旧蔵日本書籍目録」『書物・出版と社会変容14』
- 勝又基(2000)「江戸の百科事典を読む」『月刊しにか』11-3号

『訓蒙図彙』の海外流布と利用

- 勝又基 (2002) 「解題」『訓蒙図彙集成・別巻 江戸時代図説百科 訓蒙図彙の世界』大空社
- 勝又基 (2021) 「『訓蒙図彙』の言葉と図像」『文化・情報の結節点としての図像—絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』晃洋書房, 2021年3月
- 加藤知己・倉島節尚編著 (2000) 『幕末の日本語研究 W. H. メドハースト英和・和英語彙一複製と研究・索引—』三省堂, 平成12年
- 河元由美子 (2003) 「メドハーストの『英和和英語彙集』—その利用のされかた—」『英学史研究』第36号
- 岸本恵実 (2003) 「シーボルトの日本語研究」『新・シーボルト研究Ⅱ』八坂書房
- 古賀二郎 (1947) 『徳川時代に於ける長崎の英語研究』九州書房, 昭和22年
- 国文学研究資料館 (2014) 『シーボルト日本書籍コレクション現存書目録と研究』勉成出版
- 小杉恵子 (1992) 「バリ国立図書館における18-19世紀収集和古書目録稿—テイチング・シーボルト・ステュルレル・コレクションを中心として—」, 『日蘭学会会誌』第17巻第1号 (通巻第33号)
- シュテファン・カイザー (2008) 「日本語学史におけるシーボルトの位置付け—関係資料からの追求—」『日本語の研究』第4巻1号
- スエン・オースタカンプ (2010) 「新発見の欧州所在倭学書とその周辺」日韓言語学者会議—韓国語を通じた日韓両国の相互理解と共生—, 麗澤大学, 2010.11.13
- スエン・オースタカンプ (2014) 「ビュルガー・コレクションに関する若干の覚書」『シーボルト日本書籍コレクション現存書目録と研究』勉成出版
- スエン・オースタカンプ (2015) 「シーボルトの朝鮮研究—朝鮮語関係の資料と著作に注目して」『国際シンポジウム報告書「シーボルトが紹介したかった日本」』国立歴史民俗博物館, 2015年3月31日
- 杉本つとむ (1967) 『近代日本語の新研究』桜楓社, 昭和42年
- 杉本つとむ (1975) 『訓蒙図彙』早稲田大学出版部, 昭和50年
- 杉本つとむ (1978) 『江戸時代蘭語学の成立とその展開』早稲田大学出版部 (第Ⅲ巻), 昭和53年
- 杉本つとむ (1985) 『日本英語文化史の研究』八坂書房, 昭和60年
- 鈴木淳 (2014) 「シーボルト日本書籍コレクション考」『シーボルト日本書籍コレクション現存書目録と研究』勉成出版
- 田野村忠温 (2017) 「日本最初期英語研究書の依拠資料と編集」『待兼山論叢. 文化動態論篇』51
- 陳力衛 (2015) 「メドハースト『英和和英語彙集』(1830)の底本について」『日本

語史の研究と資料』明治書院

陳力衛 (2017) 「辞書は伝道への架け橋である——メドハーストの辞書編纂をめぐる」 郭南燕編著『キリシタンが拓いた日本語文学』明石書店

陳力衛 (2022) 「『英和和英語彙』(1830)の編集に用いられた近世日本の辞書類——メドハーストの書簡に基づいて」『経済研究』235号, 2022年2月

中村斎 (2012) 『訓蒙図彙 江戸のイラスト辞典』勉成出版

早川勇 (2003) 「ケンペルの使った日本語語彙」『愛知大学 言語と文化』8

ピーター・コーニツキー (2018) 『海を渡った日本書籍』平凡社

八耳俊文 (2005) 「入華プロテスタント宣教師と日本の書物・西洋の書物」『或問』9, 白帝社

H. Kerlen (1996) Pre-Meiji Japanese books and maps in public collections in The Netherlands 1996年オランダ国内所蔵明治以前 日本関係コレクション目録 (Japonica Neerlandica 6)

L. Serrurier (1896) *Bibliothèque Japonaise: Catalogue raisonné des livres et des manuscrits japonais enregistrés à la Bibliothèque de l'Université de Leyde* (Leiden: E. J. Brill, 1896).

Stefan Kaiser (1995) *The Western rediscovery of the Japanese language v. 1. Introduction / An English and Japanese and Japanese and English vocabulary* / W. H. Medhurst. / Curzon Press. 1995

(本研究は2021年度成城大学特別研究助成による研究成果の一部である)